

ハロウィン

第81号

生涯学習情報

●連絡先●
生涯学習課
☎20-1559

半鐘、見いっつけた

消防の歴史探訪

ジャン・ジャン・ジャン「半鐘の報せ? 40年位前の火事が最後かな...」「火の見櫓に上って遊び、しかられた」などの思い出のある方も...。たびたび水害に見舞われた茂原。水防も消防団の守備範囲です。そんな消防について調べてみました。

火消といえ

江戸時代、大岡越前守によって始



豊岡の纏

められた「火消」は時代劇でおなじみの、鷹口などを使つての破壊消防でした。

纏が大切に保管されています。(右の写真)

明治に入り、江戸に倣つて「消防組」が全国各地にできました。茂原町では明治3年、228戸焼失の大火をはじめ藻原寺五重の塔消失など多くの火災の発生。それを機に、明治27年、地区私設の域を脱し公設消防組となりました。(県下公設では最も古い) 大正時代には河川の氾濫、早野橋流失などの水害に見舞われて、消防組の活躍は目覚ましいものがありました。この時代の



消防と云えば、半鐘です。自主防災の考えで、地元消防団が結成され、火事の連絡は半鐘でした。今でも、身近なところに半鐘が残っています。この半鐘もいろいろな型があるようです。長いもの、鏢のあるものなど、さまざまです。



防災無線と火の見櫓

ポンプ自動車の時代に

昭和に入り消防組が改組され、昭和7年には自動車ポンプ1台を本部に配置。昭和14年には「警防団」と名を変えて、戦争時は空襲の火災消火など防衛に当りました。

戦後昭和23年、自治体消防として「消防団」が結成され、昭和27年4月には市制施行と共に茂原市消防団組織が発足。翌28年には本納町消防団も加わりました。



望楼のある現在の消防署

火災は上から発見

昭和29年、従来の消防団とは別に消防を専門とする茂原市消防本部が発足。現在地に開設された消防署は旧町警の建物を改造利用したものです。救急体制の整備と共に広域化が進められ昭和46年、長生郡市広域市町村組合を設立。現



古いポンプでお水かけ

茂原郵便局のある昌平町通りでは、毎年1月8日に、江戸時代から続く「お水かけ」の行事が今でも行われています。朝9時から自治会役員などが、「昌平町」「自警団」と書かれた昔ながらの手押しポンプに、各家の前に置かれたバケツの水を入れながら、火難よけの願いをこめて100戸程の家の屋根に水をかけて回ります。(写真は昭和30年ころ) また、午後に行われる「みろく踊り」も江戸時代から伝承されている行事です。

在の鉄筋造り望楼付の消防本部、消防庁舎が完成。県下でも珍しく、テレビの取材もあつたようです。望楼の上では24時間体制で見回りました。が、情報伝達手段の進歩と共に平成3年、その役目を終えました。

地域の守護神、消防団

消防署と共に防災の要となる消防団も昭和49年、長生郡市広域市町村圏組合消防団として発足。現在7市町村で1491名の団員がいます。常勤の消防署員に対し、消防団員は各自の職業に就きながら、災害時の消火・救助・水防活動などを行っています。

消防団員の声

消防団歴11年のベテランから。「消防団に入ると操法訓練があります。火事の現場に着いた時、いち早くホースを伸ばし放水するための訓練です。操法の競技会に向けて、仕事の後の夜や休日訓練します。そうした活動で団員の意思疎通を図り仲間意識が強まり、消防団員の誇りを感じています。」

